

八百屋 × 設計事務所

## Back ground

設計事務所。

それは、建築の設計をするところである。

設計の依頼をする人でないと、おそらく足を踏み入れないし、設計事務所の存在自体も多数の人が知らないかもしれない。

その状況は、限りなくブラックボックスに近いところである。恐ろしい。

中で何をやっているのか分からないのである。

本来設計事務所は、建築の設計をする場所なのだから、いろいろな人が集い、交流し、まちのコミュニティをつくっていく場所であればならないはずだ。

それでは、設計事務所をまちに積極的に開き、まちのコミュニティの核となるようにするには、どのようにすればよいだろうか。

真に開かれた設計事務所のありかたとはどのようなものなのだろうか。

## Concept

1. 八百屋 × 設計事務所  
八百屋さんは、フラットな場の代表例だろう。  
シャッターを開ければ即開店。だれでもふらっと  
寄りたくなる場所だ。
2. 現代のコンビニのような場所  
八百屋→商品数が非常に多いという意味である。  
つまり、八百屋は昔のコンビニのような役割を  
担っていた。設計事務所も「現代のコンビニ」  
いや「現代の八百屋」のようにすると、設計  
事務所の敷居が低くなる。
3. 新しい八百屋でまちをつくる  
八百屋さんは、大体が商店街に構えていた。  
そこで、空きテナントとなっている八百屋を  
設計事務所にリノベーションし、そこを  
コミュニティの核にし、新しい商店街をつくり、  
さらには、新しいコミュニティデザイン、新しい  
まちを生み出す。



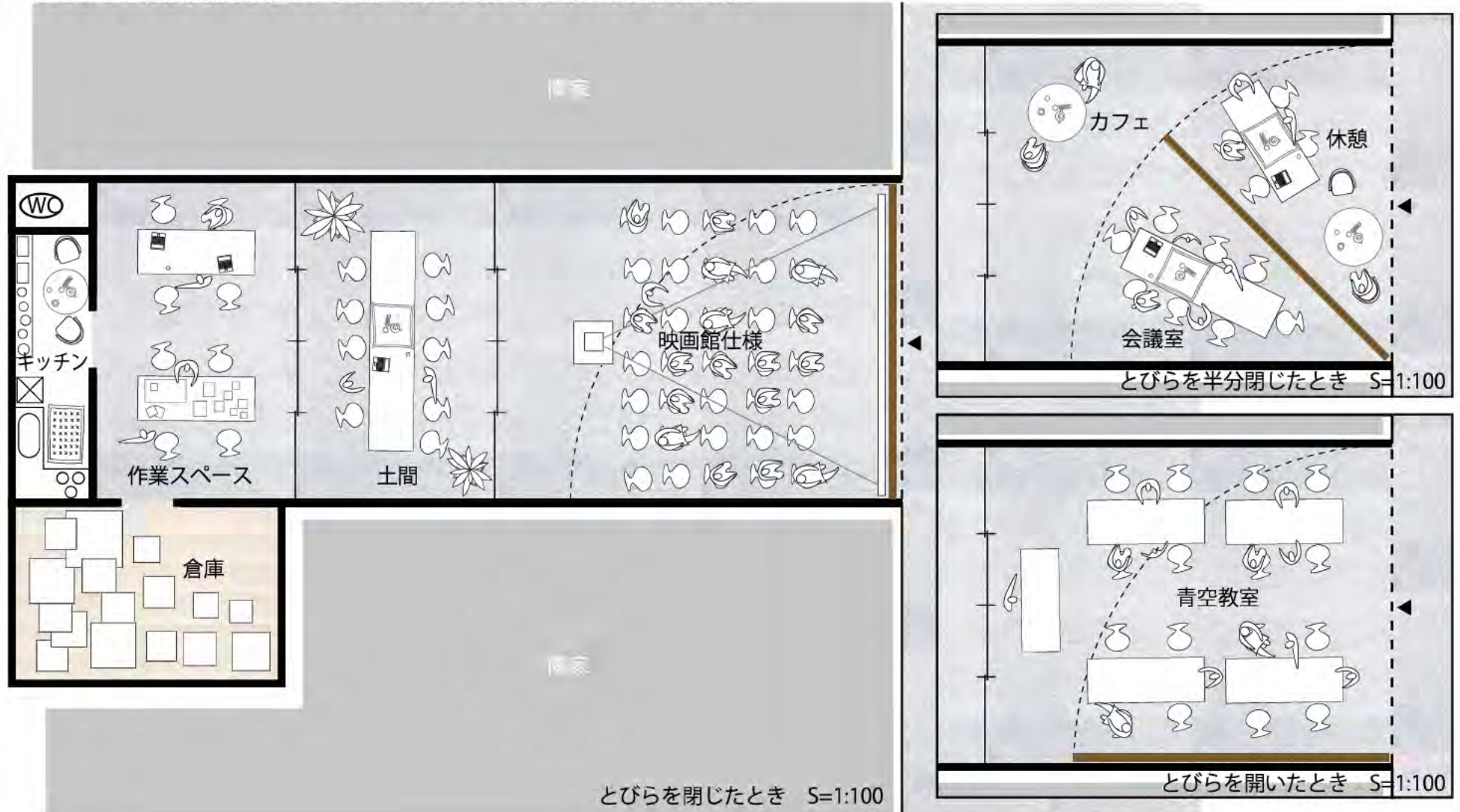
八百屋さん



まちの中で閉店してしまった八百屋さんのリノベーション

## 第15回 夢アイデア まちづくりに関する提案

築40年のかつては、商店街の中心を担っていた八百屋さんをリノベーションして設計事務所とする。まず、建物の間口いっぱいにおおきな一枚の木のとびらを設ける。そのとびらは、閉じているときは、まちのなかの大きな掲示板となり、中では、映画を上映したり半分開くと、それ自体が間仕切り壁となり、中のスペースをゆるやかに分節したり、完全に開くと、青空教室になったり、大きなとびらを介して様々なアクティビティが生まれ、新たなまちの拠点となる。



第15回 夢アイデア まちづくりに関する提案



設計事務所がまちの拠点となり、まちのにぎわいを生み出していく